



## 会報 2022年10月号

日本ニュージーランド協会（関西）  
New Zealand Society of Japan, Kansai

創立1970年11月11日

### Deep autumn How does my neighbor live I wonder

(Basho)

ご承知の通り、エリザベス2世のご逝去によりニュージーランドの元首はチャールズ3世になりました。将来ニュージーランドは共和国に移行する可能性もあるとのことですが、日本との交流はより親密になることを願います。創立52年を迎えた当会も草の根の交流を更に推進してまいりたいと存じますので皆様のご支援を改めてお願い申し上げます。

12月には、コロナ禍により2年延期になりました創立50周年記念例会を開催いたしますので多数のご出席をお待ちしております。ニュージーランドでは桜の季節は終わりコーファイ・シャクナゲ・エーデルワイス等の春の花々が咲き始めたそうです。これからは入国手続きも簡易になりますので機会を見つけてNZ旅行に行かれてはどうでしょうか。



(松沼清司) Eskdale Memorial Church, Napier

#### 【事務局】

日本ニュージーランド協会（関西）

〒558-0004 大阪市住吉区长居東2-17-28, 407

(石井気付)

電話・Fax: 06-6607-2112

<http://nzsocietykansai.com> E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

## ■ 大河内山荘見学会(第282回例会)

戦前の時代劇スター、大河内傳次郎が嵐山に別荘として30年をかけて造園した回廊式庭園・館。6000坪の園内には国登録有形文化財の中門・大乘閣・茶室等もあり、紅葉の季節は特に人気があり、今回はコロナ禍を避けるため平日開催としました。洛中は勿論、京都タワー・保津峡も展望できます。

と き:11月16日(水)11時00分 山荘受付集合 園内自由見学

近隣には天龍寺・福田美術館等名所が多くご自由に散策していただきます。

会 費:1000円 (入園料・茶菓付き)

交 通:嵐電北野線「嵐山」から徒歩15分

JR 嵯峨野線「嵯峨嵐山」から徒歩15分

市バス「野々宮」から10分

申し込み:電話・メール・Fax で事務局へ。

当日の連絡先:090-1020-1971

参加費:7500円(会員・同伴者)

小学生以下 2500円

プレゼント交換:1000円前後をご持参ください。

バザー:ご自宅に眠っている品をご提供ください。

申し込み:電話・メール・Fax で事務局へ。

締め切り:12月5日(月) 6日以降はキャンセル料  
6000円

詳細:同封のパンフレットをご参照ください。

\*コロナ禍の状況により延期する場合がございますのでご了承ください。



フローレス兄弟

## ■ 創立50周年記念例会(クリスマス例会兼)

当会は、大阪万博の年1970年に創立されました。全国に約50ある NZ との交流団体の老舗として草の根交流を推進してまいりました。コロナ禍のため2年遅れで開催することになりました。3密を避け安心・安全に配慮いたします。ご家族・友人などもお誘いください。第1部では、8年前の例会で好評を得ましたペルー出身のフローレス兄弟のフォルクローレのミニコンサート、第2部では美味しい NZ のラム肉・ワインなどの食事会・プレゼント交換会等がございます。50年の歩みを感じていただけるイベントになると存じます。当会のアットホームな雰囲気をお楽しみください。

と き:12月10日(土)11時45分~14時15分

ところ:一般社団法人 中央電気倶楽部 特別食堂

大阪市北区堂島浜2-1-25

06-6345-6877



## ■ 創立50周年記念植樹

第3回(10月1日)の理事会で創立50周年を記念して植樹することが決まりました。

植樹先として万博公園・西宮北山植物園等検討しましたが、長居植物園が引き受けてくれます。大阪市から感謝状発行・HP 掲載があるそうです。

植樹場所:大阪市立長居植物園(地下鉄長居駅)

樹種:大島桜 時期:来年2月ごろ(例会予定)

銘板には、「日本ニュージーランド協会(関西)創立50周年記念・創立1970年」と表記します。

費用は3万円程度、1口1000円で 1)50周年記念例会時に寄付を募る2)来年の年会費請求時に依頼する。ご協力よろしくお願いします。

## ■ 特別寄稿「NZ 出張」

ニュージーランドがコロナ感染対策として長らく完全に水際を閉ざしていたのは、皆様ご周知のところですが。今年ゴールデンウィーク直前、4月20日から23日にかけて、ジャシンダ・アーダーン首相が、“Reconnect(再び繋がる)”のメッセージを掲げて来日し、一連の会談やイベントで国境開放と日本との交流再開を伝えました。ニュージーランド航空は便を減らして運航していたため、軍用機で羽田に到着です。機体には空軍のエムブレムである国鳥キウィが描かれています。「飛べないのに・・・」と、つつい笑みがこぼれてしまうのです。

往来が再開したところで、私も8月、2年半ぶりにニュージーランドに出張してまいりました。今回のミッションは、ニュージーランド首相招聘プログラムでニュージーランドを訪問される高村正大衆議院議員への同行です。この若手国会議員招聘事業は、1996年に当時のジェフリー・パーマー首相が始動させたもので、日本の政界で今後活躍されるであろう先生方に、首相、要職に就く国会議員、各界のオピニオンリーダーとの率直な意見交換、現場視察の機会を通じて、国の成り立ちを直接肌で感じてもらい、ニュージーランドの良き理解者、支援者になっていただくことを目的としています。



高村議員とアーダーン首相

これまでに、首相招聘プログラムでニュージーランドをご訪問くださった国会議員の先生方は、下記の通りです。

2018	小泉進次郎 小渕優子 山下貴司 福田達夫	2004	河野太郎
2016	牧島かれん	2002	野田聖子
2015	橋本岳	2000	石原伸晃
2011	木内孝胤	1999	小池百合子
2010	牧山ひろえ	1998	田中真紀子
2009	浅尾慶一郎	1997	塩崎恭久 長峰基 新井広幸 安倍晋三
2006	上田勇	1996	中田宏 山田宏 長浜博行

手前みそになりますが、その後、首相、大臣、地方自治体首長などの要職に就かれた先生方は多く、ニュージーランド政府はなかなか優れた選抜をしてきたと思っています。1997年の塩崎先生は、国会議員をお辞めになるまで、日本ニュージーランド友好議員連盟会長を長年にわたり務めてくださいましたし、その後を引き継ぎ、今年から会長に就いてくださったのが、2002年にニュージーランドをご訪問くださった野田聖子先生です。日程には首相との面談とともに、それぞれの関心事に合わせた担当大臣や、その分野の専門家との会議、視察が組み込まれます。今回の高村先生は自民党水素社会推進議員連盟の主要メンバーであり、またニュージーランドのエコツーリズムに高い関心を寄せておられました。小泉先生は地熱発電所やコンピューター制御された搾乳システムを導入した先進酪農、箱根を地盤とされている牧島先生は観光産業に加えて男女共同参画の実体、橋本先生は

福祉と、それぞれ異なった分野に焦点があてられました。アーダーン首相と面談された先生方が間違いなく驚かれるのは、執務室で首相自らがコーヒーやお茶を入れてくれることです。また今回はトレヴァー・マラードに代わり 8 月 24 日に選出されたばかりの、エイドリアン・ラフェ(The Right Honourable Adrian Rurawhe) 下院議長にもお目にかかりました。1993 年のピーター・タスペル以来、二人目のマオリ人議長です。嬉しい事に、訪日への強い意向を示しておられました。面談はまさに引越しの合間に行われ、議事堂の廊下にはあちらこちらに段ボールが積まれていました。同行する私にとっての楽しみは、会話の端々から、日本がニュージーランドをどのように捉えているかを垣間見ることです。そして、ニュージーランドが地理的に世界の何処からも遠く離れた国であるのにもかかわらず、グローバルコミュニティーの一員としての視野を持ち、安全保障分野でその責務を全うしていることに気づかされます。ロシアによるウクライナ侵攻、中国の海洋進出を決して他人事と捉えてはおらず、これまでもアフガニスタンへの派兵、国連の平和維持活動など、国際社会への貢献をしっかりと果たしています。余談ですが、国内のキャッシュレス化はさらに進みました。首都ウェリントンで日本円を NZ ドルに換えようと銀行に立ち寄りましたところ、「もう 2, 3 か月になるけれど、現金は扱わないのよ」だそうです。換金自体は両替業者に行けばよいので大した問題ではないのですが、マネーロンダリングを防ぐためと、紙幣やコインは不衛生なのでコロナ禍において出来る限りカード決済を薦めると説明されました。確かにそうかもしれませんが、相変わらずの方針転換の速さに目が点になりました。何らかの理由でカードを持ってない人々に対して、小売店は出来る限り現金での支払いを支援すべきであるが、それを拒んだからと言って法律に触れることは無いとしています。2019 年 9 月時点で存在した国内 5 大銀行の 863 支店のうち、その約 4 にあたる 211 支店が 2021 年 3 月までに閉鎖されたことも、誘因となっているようです。With コロナです。

ニュージーランド航空も段階的な増便に舵を切りました。コロナにより、ズーム会議という選択肢も増えましたが、やはり対面あつての交流です。渡航についてはワクチン接種証明も陰性証明も現在不要となりました。

皆様にもぜひ近いうちにニュージーランドをご訪問いただきたく願っております。

(ニュージーランド大使付 エグゼクティブオフィサー  
宮崎智世)



(左)シンクレア外務貿易省副事務次官(元駐日 NZ 大使)  
(中央)筆者 (右)高村議員



(左)伊藤 駐 NZ 日本大使

## ■ オールブラックスがやって来ます



ラグビーのニュージーランド代表(オールブラックス)が来日し、10月29日(土)に国立競技場に於いて日本代表とテストマッチをします。NZ代表と日本代表の対戦は今回で7回目になります。2018年11月の試合では、日本が31対69とNZに善戦しましたが、それまでの対戦では大差で日本代表が敗れています。

ラグビーの世界では長い間、NZと南アフリカ共和国が2強を成していましたが、近年は他の国が追い上げ、実力は接近しています。ラグビーワールドカップでは、NZと南アフリカが3回、豪州(オーストラリア)が2回、イングランドが1回優勝して、上位チーム(他にフランス・アイルランド・ウェールズ等)が固定していました。しかし日本を含め各国が強化し、強豪国が敗れることが増えました。

毎年、北半球ではシックスネーションズ(イングランド・スコットランド・アイルランド・ウェールズ・フランス・イタリア)が催され、ラグビーファンの注目を集めますが、南半球ではチャンピオンシップ(NZ・南ア・豪州・アルゼンチン)が行われ、実力では最高峰と言えます。

この文章を書いている時点(9月18日)でのチャンピオンシップリーグの現状を伝えることにします。(前年は、NZが優勝しています。)南半球の冬から春に当たる8月6日から9月24日にリーグ戦(各対戦2試合の総当たり)で行われ、優勝を競います。今年はNZの不調が伝えられますが、それでも対南アフリカに於いて1勝1敗(1試合目NZ10-26南ア、2試合目NZ35-23南ア)で、その後の対アルゼンチンも1勝1敗(1試合目NZ18-25アルゼンチン、2試合目NZ53-3アルゼンチン)です。興味深いのは、この時点で4か

国全て2勝2敗で並んでいることです。(南アフリカ対豪州も1勝1敗。豪州対アルゼンチンも1勝1敗。)

【その後、第5節があり、NZ対豪州(9月15日)は、NZの1勝(1試合目NZ39-37豪州、2試合目は9月24日にあります。)南アとアルゼンチンの対戦(9月18日)は、南アの1勝(南ア36-20アルゼンチン、2試合目は9月24日にあります。)となり、現状ではNZと南アの優勝争いになっています。】

このリーグは最初は3か国(NZ・豪州・南ア)で行われていましたが、途中からアルゼンチン(南米では1番強い)が入りました。そのアルゼンチンがどんどん力をつけて追いついてきたように思います。アルゼンチンといえばサッカーが盛んで、特にマラドーナ選手(昨年60歳で他界しました。)が有名です。サッカーワールドカップでは2度優勝しています。

NZと豪州の対戦には、ブレディスローカップ(1932年創設)という2か国対抗戦が生まれ、(このチャンピオンシップでの対抗戦を含む)毎年、ライバル同士競い合います。

ここで各国ラグビーの代表の愛称を書いておきます。NZ…オールブラックス。豪州…ワラビーズ(小型のカンガルー)。南アフリカ…スプリングボックス(高く跳びながら走る鹿のような動物)。アルゼンチン…ピューマズ(南米に棲むヒョウのような猛獣)。

ラグビー日本代表は、10月29日(土)に東京でNZとテストマッチを行い、その後、11月12日(土)にはロンドンでイングランド代表と、11月20日(日)にはトゥールーズでフランス代表とテストマッチを行います。

(貴志康弘)



## ■ Aotearoa やさしさの循環する国で 第7回 ものの値段

### 「高くなった乳製品」



会員になれば\$4 で購入可能という可能性を残しつつ、非会員(一般の消費者)には\$4.90 の販売を決めた

The Warehouse のバター売り場

大型ディスカウントチェーン The Warehouse が「**YOU BUTTER BELIEVE IT!** バター国内最安値の4ドルで販売！」という広告を載せたのが今年の4月。

Countdown、New World、Pak 'n Save などの、国内の大手スーパーは同サイズ(500g)のブランドバターを8ドル前後で販売していたから、バターは数時間で売り切れ、同社の Facebook の投稿に 1000 を超えるコメントがつき、400 回以上シェアされるという騒ぎになった。ミレニアム以降、2015 年あたりまでは3ドル前後を推移してきたバターは数年前ならチラシ広告の目玉にはなり得なかったはず。今ではバターの値段の動きは注目の的だ。バターは値段が2倍を超えたことで、はちみつに続いて「NZ GOLD(新時代の金)の異名をとった。残念なことにこの格安バターは短命で、翌月にはさっそく90セントの値上げが決まった。

バターの値上げは、マーガリンを使うことである程度対抗できる。もっと切実に国民の食卓を直撃したのが、Block of Cheese(大きなチェダーチーズの塊)の値上がりだ。値上げ幅が大きく、しかも同じサイズと同ブランド製品がスーパーによって販売価格に開きがあ

ったことが問題化した。また、昨年末の大雨の影響を受け、今年の3月にはカリフラワー1個に\$15の値段がつき話題になった。スーパーの店頭には並ぶカリフラワーの写真とともに「こんな高い野菜なんて絶対買わない！」と Twitter にも投稿された。スーパーが儲すぎなのでは？という声が大きくなり、Consumer.org.nz(消費者グループ)の呼びかけで #stopthesuper profit(スーパーマーケットの暴利を止めよう!)というハッシュタグの下、20万筆以上の署名が集まりつつある。

### 「安いペトロールを求めて」

統計局は消費者物価指数(CPI)は前年同期比で7.7%の物価上昇、と発表した。30年ぶりに経験する物価高だそう。主に燃油価格の高騰によるものでガソリンは32%、ディーゼル(軽油)は74%値上がり。少し前まではわが家のディーゼルのハッチバック車を満タンにするには60ドルぐらいだったのが、今や130ドルの出費だ。文字通り、給油に行くたびに値段が上がっていった。ついに、政府は期間限定(2023.1まで)でガソリン税の減免措置を導入。ようやく8月に入ってガソリン、ディーゼルともに値段が落ち着いた感がある。「ご近所で一番安い燃油の給油スポット」を利用者同士でリアルタイムで知らせ合うスマホのアプリ、**GASPY**も大はやりだ。ちなみに Petrol(ペトロール)はキーウィ英語でガソリンを意味する。

今年に入り、北島の Northland の Marsden Point にあるニュージーランド唯一の石油精製場が、設備の老朽化や採算の悪化などを理由に機能を停止すると発表された。和歌山の巨大製油所も突然閉鎖になったと聞く。世界的な脱炭素の流れやエコカーの普及などで石油製品の需要が減少する、という見込みの措置らしい。58年もの間、身近だった精製所は徐々に機能を止め、ついには閉鎖となるそう。政府は2050年までに脱炭素を宣言している。2035年までにはガソリン、ディーゼル車の輸入もなくなる。町中にはEV車

のための TESLA の充電スタンドが少しずつ増えてきた。でも、農業国のこの国で、あの大きなトラクターを電気だけで動かすのは現実的とは思えない。石油精製所の閉鎖後は原油を輸入するのではなく、精製済みの製品を買うことになる。全てを輸入に頼ることになるので、緊急時の供給が不安だという声も聞かれる。



58年創業の歴史をもつマースデン精製所  
(Whangarei, Northland)

国境制限が緩くなり、さらに行き来が活発化すれば「来年までに約5万人が国外に流出するだろう」という Kris Faafoi 移民局大臣（2022.4）の発言も、ニュージーランドの物価高に根を上げたキウィが、コロナ禍で増え続ける「国外への脱出」の数に拍車をかけるだろうという読みかもしれない。

### 「たくさんある食肉の種類」

ニュージーランドの一般家庭で食べられている肉は6つある。牛、豚、鶏、ラム、ベニソン（venison 鹿肉）とヤギだ。牛、豚、鶏のうち、いちばんお手頃価格なのは鶏肉。次が豚、牛肉の順で値段が上がるイメージがあるのではないかと思う。ニュージーランドでは少し様子が違う。この3つは部位にもよるが、だいたい同じような価格帯に収まっている。でも、近年飛び抜けて高

くなった肉がある。輸出需要が飛躍的に増えたラム肉だ。輸出時の高めの価格を国内価格にも適用するというやり方は Export parity pricing といわれているが、これでは物価の上昇は止まらない。

ラムのローストは骨付きのかたまり肉が小さいものでも50ドル以上するので、そう頻繁には食卓に乗せられない。もっぱら豚の塊肉でローストを作るのは、コストパフォーマンスが格段にいいからだ。さらにスープやキャセロールなどの「煮込み用の牛肉」の値段は豚ミンチよりやや高めぐらいなので、ぐつぐつ煮込む手間を惜しまなければ、柔らかい牛肉を思い切り食べられる。



Countdown Whole NZ Lamb  
Leg Bone In Grass Fed

\$56.43 each (approx)  
**\$20<sup>90</sup>**  
kg

ラムの脚1本の重さは3キロぐらい。1本の値段は安くても50ドルの計算になる

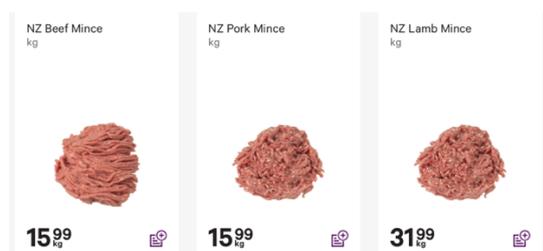
ベニソンは最近人気が出てきた食材で、田舎道をドライブしていると、フェンスを一段と高くしつらえた牧場を見かける。高い塀の中にいるのはたいてい鹿で、ダチョウもたまに見かける。鹿肉は真空パックの手軽に買えるものとキロあたり40ドルぐらいで買える。そして、最近地元のスーパーでも見かけるようになったのが、ヤギの肉。フィジーからのインド系の移民が増えたことに伴い、需要がのびたらしい。ちょっとクセはあるが、スパイスたっぷりの煮込み料理に使えば柔らかく、おいしい食材だ。



柵が最低でも2メートルの高さが必要なのは、鹿には驚異的なジャンプの力があるからだ

### 「キーウィ好みの肉」

一般にこちらで好まれるのは脂肪の少ない赤身。肉売り場にはギリギリまで脂肪を削いだ肉が並んでいる。食べる時でも、脂肪をナイフでいねいに取り除いて食べている。こってり霜降りになった憧れの KOBE BEEF を食べた友人の第一声は「バターのかのような濃厚な牛肉(笑)」。最近では ANGUS (アンガス牛) の隣に WAGYU (和牛) というラベルのついたものも見かける。高タンパク、低脂肪で知られる GRASS-FED (放牧で草のみを食べて育った牛肉) も赤みが強いので人気があるが、特に高価なわけではない。



左から牛挽肉、豚挽肉、ラム挽肉。全て国産で 1 キロあたりの値段

挽肉でも、脂肪分をしっかりと取り除いたものがプレミアム(最高級)。とても赤い色をしている。松竹梅に例えるなら、premium, prime, standard ,mince (ちなみにミンチはミンスと発音する) の順になる。脂肪を残した

まま挽いたミンチはピンク色で、値段が一番安い。主流が牛ミンチなので、豚ミンチも鶏ミンチもあまり見かけない。ラム肉も挽肉になって売り場に並んでいるが、牛ミンチの 2 倍の値段がついている。それなのに、日本ではお馴染みの「牛と豚の合挽きミンチ」が手に入らない。「プレミアムな牛ミンチは脂肪がなくてパサパサだから、自分で合挽きのミンチを作っている」と言ったら、キウィの友人が「ミンチを混ぜるなんて、考えたこともなかったので面白そう」と早速やってみたという。あとで聞いたら、牛ミンチとあの高級なラムミンチを同量混ぜてハンバーグを作ったそうだ。一体どんな味だったのだろう、とハンバーグを作りながら時々思い出す。

### 「破れてもいいから」

ここでは薄切り肉の調達も難しい。値段が安い故に、わざわざ超薄切りにして食べる調理法も見当たらない。食材としてスーパーにも売っていないので、直接肉屋に交渉する事を思いついた。生の大きな塊肉をいったん半冷凍して、シャリ感が出た頃に、ハム用の器械でスライスしてもらうのだ。料金を前払いしたり、冷凍したりの手間で、薄切り肉をうけとるまでに2往復、半日以上を要する。「紙のよう(paper thin)にスライスしてね」と念押ししても、なかなかあの薄さにはならない。あるときイタリア系移民のおじさんが「SUKIYAKI ?? OK OK 僕たちも薄切り肉の料理があるから大丈夫！」と太鼓判を押すのでお任せしたら、4 ミリのぶ厚い薄切り肉が出来上がった。しかも2キロ分も！イタリアの仔牛の薄切り肉料理は日本のものとは比べ物にならないほど分厚い、と気づいたときは後の祭りだった。以来、肉屋さんの作業場の入口に立って、肉が希望の厚みになるまでおじさんに何度もダメ出しする。やり取りを繰り返して分かったのは、肉屋さんは「破れる」ことを気にして「破れないぐらいの厚み」にしようとしていたこと。「破れてもいいから紙の厚さにして」と注文する事で、薄切り問題は一気に解決したのだった。

最近、アジアからの移民が多いことで知られる Auckland 北部の Northcote にある韓国人経営の肉屋で冷凍の薄切り肉を見つけた。しかも牛と豚の両方があり、安価な上においしくて感激した。移民がいるということは、食がフュージョン化する。「破れてもいいから」は過去のものになった。

ちなみに一番高価な部位は、ジューシーで柔らかく脂肪の少ない Eye Filet (アイフィレ。ヘレ) で、その次は Scotch (スコッチフィレ)、Sirloin (サーロイン) と T Bone (T ボーン) と続く。

一般的、とは言えないが、七面鳥や猪肉も需要がある。輸出用が主で、国内市場では流通していない。わが家でペットとして放し飼いにしていた Kunekune pig (マオリ豚) は硬い毛に覆われていて、見た目はほとんどイノシシそっくり。脂肪分たっぷりて食用には向かないと分かっているのに、来訪のたびに「Hello Ham 'n Bacon!!(こんにちは、ハムとベーコンちゃん)」と呼びかけて、私をドギマギさせて楽しんでいたかつての日本語の生徒 S 氏は、今、ウエリントンのビーハイブで国会議員をしている。



HokeyPokey (右側の母豚。NZで人気のアイスクリームのフレーバーにちなんで命名) と生まれてまもない子豚

## 「平和な国」世界2位の評価と「ラムレイド」

今年もオーストラリアの経済産業省平和研究所が作った世界平和度指数 (GPI) が発表された。ニュージーランドは総合評価で世界2位を維持。ところが治安面

では 16 位と低迷している。つまり、この2位という評価は「安全さ」の指標ではない、ということで、テロのリスクや外交の緊張などの項目から決めた「平和な国」の度合いを示すものということになる。

少し前に友人がオフィスの前に停めていた車から、夜間ガソリンを抜き取られるという被害にあった。翌朝、車を置いたあたりのコンクリートに大きな油の輪じみできていて、被害に気づいたようだ。

ニュージーランドでは電気自動車 (EV) の輸入台数が、今年3月までの1年間で2倍となったことが、NZ政府統計局 (SNZ) による最新統計から明らかになった。海を越えてやってくる外国産に頼るしかないから、人気の特斯拉車を購入するには順番待ちがとて長い。しかも新たに買い換えのできる富裕層は限られている。公共輸送機関のない地方も多い。高騰し続ける燃油で車を満タンにする経済的な余裕がなければ、外出回数を制限せざるを得ない。政府が定めた「気候変動対策ロードマップ(長期プラン)」が低収入の貧困家庭を直撃することは容易に想像がつく。被害にあった友人も「よっぽど追い詰められていないと、こんな大胆な犯罪にはおよばないだろうなあ」と同情するように言っていた。

また、オークランドなどの都市部で大きな問題になっているのがラムレイド (RAM RAID)。これは店舗に車ごと突っ込み、店内に侵入したあと商品を奪って逃走する犯罪のことだ。犯人は若年化しており、7割以上が 18 歳以下(高校生ぐらいの年齢)だというので問題は根深い。今年の上半期だけでも 258 件のラムレイドが報告され、4年前と比べて5倍以上の数になったとニュースを賑わせた。

襲われたのは、宝飾店、酒屋、家電販売店、ガソリンスタンドなど様々。盗難車が使われ、犯人逮捕の決め手が少ないのか、未解決のラムレイドも多い。全国で発生するラムレイドは後を断たず、ニュージーランドの都市部の急激な治安悪化を印象付ける事態となっている。



オーランドの量販店に突っ込んだ車。この車は盗難車で、犯人は18歳の少年だった

### 「夢のワンコインランチ」



ふつう Fish & Chips を注文すれば、手渡されるのはキツネ色の揚げ物だけ。野菜はつかない

日本からの留学生を預かる機会があった。16-17歳の高校生たちが先生の引率で短期留学にやってきたのだ。到着日にまずは Fish & Chips を、と注文したら23ドルもした！と驚いていた。注文したのは近所のおじさんがやっているような小さなテイクアウトの店でなく、観光地の小綺麗なカフェ。小柄な彼女には食べきれないほど量はたっぷりサービスしてもらったそうで、生野菜のサラダも添えられていた、と言っていた。

カフェでのランチはサンドイッチなどの調理済みの単品なら安上がりだが、メニューから選べば20ドルが相場だ。日本のように蕎麦やうどんを注文し、無料サービスのお茶を飲んでランチ終了、というわけにいかない。たいてい飲み物やデザートが加算されるので、合計はひとり30ドル近くになる。キーウィが日本の「ワンコインランチ」の存在を聞いて驚くわけだ。

久しぶりに家族で近所のレストランでディナーをしたら、メインディッシュの肉料理がなんと50ドルの値段になっていた。コロナ騒ぎの前は40ドル程度だったので、日本円に換算してぎょっとした。3コースのディナーなら前菜20-30ドル、デザート20ドルを足してアルコール抜きでひとり100ドル。それでも、どこのレストランもカフェもいっぱいの人であふれている。

高校生たちが日本の家族や友人たちにお土産を買うのに円に換算\*し、いったん手に取った商品を棚に戻す様子を、滞在中何度も見かけることになった。

\*8月末の時点で銀行レートは1ドルが90円弱。過去5年の中でも最高の「円安ドル高」を記録した。



わが家の牧場で牛の様子を観察する12歳ごろの娘。じっとしていると、牛は興味を引かれて、必ず向こうから近づいてくる

最後にクイズをひとつ。

広い牧場の「草刈り」用に牛を数頭飼っていた時のこと。私たちの Homestead\* 〈豪俗語〉 牧場主の邸宅（アルク英辞郎 on the WEB より）を訪れる日本人に聞いてみた。「牛一頭\*はいくらすると思う？」びっくりするほどの高値の答えが返ってきて、「日本の牛肉の値段の高さから逆算してのことだと思うけど、それにしても（高すぎるよ）」と夫のドンが目を丸くしている。

皆さんはいくらぐらいだと思いますか？

\*もちろん雄牛と雌牛、年齢によって価格は違います。答えは次号: 😊

---

## \* Valley Homestead

「ホームステッド」はあまり耳馴染みのない言葉だと思います。家の正面にベランダのついた大きめのヴィラハウスをイメージしていただくと良いと思います。

私たちの築 100 年のヴァリーホームステッドで、2年ぶりにゲストの受け入れを再開することになりました。「シニア向けのお宿」で、ゆったりのんびりがモットー。12月、寒い日本を脱出して初夏の NZ に遊びに来ませんか？今回は NZ 協会のメンバーを優先させていただきます。

予約受付は 10 月から、宿泊は 12 月 1 日前後から可能です。ロングステイも歓迎。入国のお手伝いやレンタカーの手配、旅行保険の手続き、地元の観光地を訪ねる小旅行（通訳付もあり）など、なんでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせは「NZ 協会の会報を見て」とひと言書き添え、[valleyhomestead.nz@gmail.com](mailto:valleyhomestead.nz@gmail.com) までどうぞ。



(さかい ケイツ みか WHANGAREI 在住)

## ■ ニュージーランドの若大将

臨時例会としてニュージーランドの若大将 DVD 鑑賞会を9月3日に中央電気倶楽部で開催しました。映画のストーリーを簡単に紹介し、参加者等からの感想を掲載します。若大将シリーズ(17 作)は加山雄三主演の東宝映画です。

日東自動車のシドニー駐在員田沼雄一(実家は老舗のすき焼き店)は日本からやってくる代議士を空港で出迎えしていると学生時代のポン友で今は世界旅行社の社長となった青大将こと石山新次郎と会う。(略)その後雄一に本社から帰国命令が来て石山とともに帰国。東京でひよんなことからニュージーランド振興会の森川節子と知り合う。

それ以来二人はたびたびデートをする仲に。そんな時オーストラリアでセールスマンナンバーワンとなった元同僚のエリザベスが招待で来日、雄一が世話をやく。その後、ニュージーランドで新型車発表のデモンストレーションを提案した雄一は準備のためオークランドへ。節子も万博の仕事でオークランドへ。エリザベスと親し気な雄一を見て一時節子は誤解したが、パーティでエリザベスには婚約者がいたことを知り誤解は解けた。最後のシーンは雄大なタスマン氷河の上でスキーを楽しむ雄一と節子の姿が見られた。高度成長期の日本を反映した良き時代の映画。DVD 鑑賞をご希望の方は事務局へご連絡ください。(無料)

## ■ 鑑賞者の感想

・今回、映画を見させていただき大変楽しかったです。当時、高度経済成長期であった日本のモーレツ社員が世界を舞台に活躍されていたのを拝見でき良かったです。また、田沼を中心に展開されていた恋愛もわかりやすく、映画を見ている私自身が田沼と節子を応援したい気持ちになり、最後は二人が結ばれて良かったです。

---

また、当時のオーストラリアやニュージーランドの街並みも見ることができましたが、現在と比較すると高層ビルは少ないですが、コンパクトに収まった綺麗な街である印象を受けました。

最後になりますが、映画の前半ではリズは田沼に恋心があると思いましたが、彼女は仕事の上司として田沼を尊敬し、懂れていたと思います。日本人として、海外の人から仕事で評価されることは誇りに思います。逆に言えば、当時の日本は勢いがあつたのでしょうか。私自身、働き世代として本業・ボランティアとも真摯に頑張つて、日本に寄与したいです。

・兎に角「皆んな若——い！」が、まず思うこと。1969 年度作品ということは半世紀以上前の作品なので、中には既にお亡くなりになっている俳優さんがいらっしゃるのも仕方がないことです。今年で 85 歳になる嘗ての若大将も、ついに年内でコンサート活動を引退されるとか。変わらないのはニュージーランドの大自然ですね。それでも、温暖化のせいで氷河の先端が毎年後退していつてるそうですが。

’70 年大阪万博直前の「高度経済成長期の日本は、あんなに浮かれていた時代だったんだ」とつくづく思う反面、映画の中で描かれる‘場をわきまえないセクハラ行為や喫煙’を見ると、チョット恥ずかしい思いがしてしまいました。

私が初めてニュージーランドに仕事で行ったのは 1988 年ですが、そのとき世界に先駆けニュージーランドは既に航空機内も空港建物内も全てが禁煙になっていました。パレードをする映画の中の街並みはその当時の雰囲気近く、その後の発展が著しいのか現在とは随分違っているので懐かしい思いで観ました。そのため、パレードよりも見覚えのある店舗が無いかわず目で追っていたくらいです。余談ですが、気になった点が……「パレードをクイーンズ・ストリートでしている」と言っていました「クイーン・ストリート (Queen St)」ですよ。

映画のタイトルが「ニュージーランドの若大将」なので、オーストラリアよりニュージーランドの魅力をもっと見せてくれたらと思ったのは私だけでしょうか？

・NZの若大将に一言コメント！

10年ひと昔と言いますが、51年はいと昔！？

有島一郎も飯田蝶子も鬼籍に入ってます！

セクハラ・パワハラOKの自由さ！

オーストラリアとNZの区別がついてないのでは？

・臨時例会の準備ありがとうございました

見せていただいた映画は当会設立(1970 年)の 1 年前のものということで、私は2つの懐かしさを重ねあわせながら見せていただきました。

一つの懐かしさは、この映画の撮影された時期が私の学生時代で、建築科の学生であった為、万博を控え夢いっぱいの時でした。

このころ、酒井和歌子はあこがれの人で、吉永小百合よりも親しみやすく感じたものでした。

もう一つの懐かしさは5年前に行った時の思い出です。

この時のニュージーランドの印象は、農業立国で工業製品は輸入に頼り、まだ完成して間もないような火力発電所も運営をとめるというような、環境保全に力を注ぐ国、でした。

映画のストーリーがニュージーランドの車の営業だったので、53年前からもあまり変わっていないのかなと思ひながら見ました。

最後の場面はマウントクックかなと思うのですが、石井さんからマウントクックはぜひ空から見るように言われていたのですが、飛行機が墜落したら怖いので、下から見ただけですが、上から見ればこんな風に見えるのかと感動しました。雪の山は、人間の小ささをはっきりと示してくれるので、心の洗濯になります。

こんな色々な思いの入り混じった時間でした。

---

・制作当時の日系企業の様子がよくわかる内容でした。演出は、男女の鉢合わせがパロディ的で面白い反面、頻度の高さから不自然さを感じました。

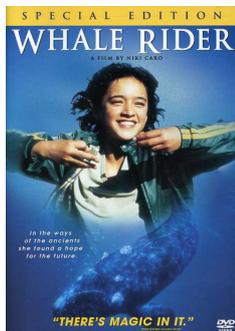
海外の情報が手に入りにくい時代、不便さよりも、のんびりさを感じました。

有楽町であんなにのんびりお商売やっていたらすぐに撤退になるでしょうし。

・今の基準ではセクハラ・パワハラの場面もあり、NZ は最後の10分程度しか登場しないでオークランドよりシドニーが多く舞台になっていて映画のタイトルと違いがっかり。ミルフォードサウンド・クイーンズタウンのシーンがなかった。鬼籍に入った俳優陣の顔が観れて懐かしい思いがした。

コメント(平瀬・松沼・山下(明)・山下(誠二)・中村・石井)

## ■ 「クジラの島の少女」 DVD 鑑賞



ニュージーランドの海岸にある現代のマオリの村が舞台。この映画はマオリがキャスト・スタッフで制作された人間ドラマ。族長の孫として生まれた女の子パイケア、だが族長は跡継ぎになる男子が欲しかったと落胆する。祖父の苦しみをしるパイケアは自分がなんとかして跡継ぎとして認められるように努める様子を紹介している。マオリの信仰の対象であるクジラの映像が圧巻。2003年の公開であるが、マオリ社会を理解するには最適な映画のひとつ。76回アカデミー賞(主演女優賞)候補となった。

このDVD 鑑賞希望者は事務局までご連絡ください。

(無料)

## ■ Do you know him?



政治学者の<sup>しょうぎめん・たかし</sup>将基面貴巳さんをご存じですか？ 1967年横浜生まれ、オタゴ大学人文学部歴史学教授。慶應義塾大学政治学科卒、シェフィールド大学大学院歴史学博士課程修了(Ph.D)ケンブリッジ大学リサーチフェロー、オタゴ大学准教授などを経て現職。専攻は政治思想史。「ヨーロッパ政治思想史の誕生」で第35回サントリー学芸賞受賞。

NZについては日本のメディアからの取材を多く受ける。オタゴ大学で検索すれば先生の講義を聞くことができます。寄稿された新聞記事のコピーを同封します。近著には「愛国の起源」ーパトリオティズムはなぜ保守思想となったのかー・フランス革命では反体制側の思想だった。・日本に伝わったのはその思想の一部だけ。・明治以前、日本には「愛国」という言葉はなかった等興味深い内容が書かれています。本書(ちくま新書)は1冊手元にありますので、ご希望者にはお貸いたします。

(石井久行)



ダニーデン・オタゴ大学

## お悔やみ

第2代会長、塩田晴康さんが7月27日 脳梗塞でご逝去されました。(享年72歳)川瀬勇初代会長の後任として2000年に就任、2006年の退任まで話題のレストランでの会食・NZ 人をゲストに招く等例会の企画・実施等に熱心に取り組みました。2003年からは月1回のキーウイサロンも主宰されました。運営方針の違いで当会を退会后、ニュージーランド学会で事務局長として活躍されていました。登山・写真・花の栽培等が趣味でワインの愛飲家でした。1984年、NZ の科学産業研究省の招請で果実の香気成分分析の研究でオークランドに行かれ、以来ニュージーランドの大ファンとなり日本とNZ の交流に貢献されました。両国の交流に惜しい人を失くしました。塩田さんのご逝去を悼みお悔やみ申しあげます。塩田さんと同じころ専門分野は異なりますが、ニュージーランド政府招聘で研究(紙パルプ)生活の経験がある山内龍男副会長からメッセージをいただきましたので掲載させていただきます。

(石井久行)

### ■ 塩田晴康さんを偲ぶ

塩田さんは塩野香料(塩野義製薬の本家筋にあたりと彼から聞いた)の研究者として1980年代半ばに、丁度私も同じ頃だが、NZ に長期滞在され、結果として、また私も同じだが、1990年前に NZ 協会(関西)に入会された。当時の協会の多くは、協会創立者である川瀬会長の縁で入会されており、その点から距離を置きつつですが、彼とはNZを愛する同年代の仲間同志として、協会活動に参加してきました。その会長没後、彼は会長職を引き継がれ、暫くして当時の事務長との騒動があったのを私は傍で見て、かつ応援していました。彼は協会活動のいわば別企画をキーウイサロンと名付け、当時北新地にあったムジカでたしか毎月第2水曜に開催されたのだが、仕事も家族もある身と

して週半ばの夜での随時参加の会合は若い人も参加し易く、私はその常連でした。

結果として、協会のごたごた騒動の責任を取る形で、協会を辞されたのだが、その後は設立されたばかりのNZ 学会の重鎮として活動されると共に、引き続きサロン主催者として、常に NZ の話題を提供されていました。私はたまにですが、サロンにも参加しており、ワインソムリエとしても含蓄を傾ける彼の話聞いていました。最近、コロナによりサロンも中断のままで、結局顔を合わせる機会もなく、今日に至ってしまいました。大変残念です。彼のNZを愛する気持ちを引き継いで、我々協会員が今後も活動されることを願っています。

(山内龍男)

### ■ ニュージーランド航空 機内安全ビデオ

コロナ禍になり自宅で過ごす時間が多くなった方が増えました。秋の夜長を読書・音楽鑑賞のほか最近では SNS・YouTube 等で楽しむことが多いようです。NZ 航空の機内安全ビデオは大変面白いそうです。まだ関空から NZ への直行便は再開していませんが、「オールブラックス・マオリの神話・ホビット・飛べない鳥タカへの大冒険」等がビデオに登場します。ご自宅で楽しまれてはどうでしょうか。

### ■ 50周年記念マグカップ

在庫が少なくなりましたが、ご希望の方には、郵送・手渡しなどで配布いたします。電子レンジ専用です。1個1000円・送料400円。ご希望の方は事務局にご連絡ください。

